

令和6年度「ストップいじめ なら子どもサミット」

奈良市教育委員会事務局
いじめ防止生徒指導課

令和7年1月7日（火）午後1時30分より、令和6年度「ストップいじめ なら子どもサミット」をオンラインにて開催しました。8回目の開催となる今年度は、「動き出そう！」～思いやりあふれる学校へ～をテーマとし、「いじめを許さない学校づくり」の実現に向けた意見や取組を交流し、子どもたち自らが主体的にいじめの防止について考え合いました。

○開会の挨拶と激励のメッセージ

はじめに、登美ヶ丘小学校の代表児童が開会の挨拶を行いました。

挨拶では、「今回のテーマは、【「動き出そう！」～思いやりあふれる学校へ～】です。

まずは、思いやりあふれる学校とは、どのようなものか、頭の中で何かを考えてみてください。今までも、いろいろな対策が講じられ、実践されていますが、いじめは完全になくなったといえる状態には至っていないのが現状です。そこで、今回のサミットでは、未然防止の方法や自分たちが実践できることを考えていきます。

このサミットに参加する小学生、中学生、高校生、参加している先生、全員が「いじめをなくすためには、どんな対策ができるのかを考え、全ての人安心して学校生活を送れるようにする」という同じ目標を持っています。この目標を達成するために、いじめについて深く交流していきましょう。

そして、奈良市の全ての人安心して学校生活を送れるように、今日、このサミットに参加しているメンバー全員が積極的に意見を出し合い、いじめのない環境を作っていきましょう。」と伝えてくれました。



次に、仲川げん奈良市長より、「いじめはダメだと、いじめはなくそうということはもう誰もが分かっているけれど、やはりいろんな人たちが一つの空間で共同生活をしたり共同で学んだりしていると、どうしても人間関係の中に歪みができることがあります。どこまで意図的にしているかというところは程度があるかと思います。けれども、結果として、学校に行きづらくなったり、人間関係に悩む、そんな子どもたちがなかなかゼロにはならないという状況があるように思います。そういった問題をどうしていけばいいのか。当事者の子どもたちと学校の先生方が一緒になって考えていただくこのサミット、大変期待をしております。なかなか難しい問題でありますけれども、難しい問題だからこそ、みんなで知恵を寄せ合って正解のない答えを、みんなで納得



できる答えを見つけていくということが重要なと思います。

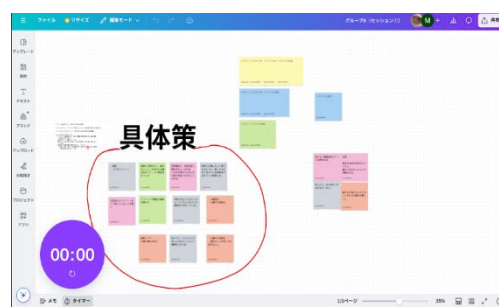
それから、いじめの問題をはじめ、おかしいと思ったことをおかしいと声に出して行動していくことの大切さも非常に大きいと思います。場合によっては、おかしいと思いながら声を上げられない。例えばそんな国が地球上にはあるようにも思います。日本はそういった意味では、みんなの人権や安全が保障されている国ですので、そこはぜひ勇気を持って行動してほしいと思いますし、我々大人の側は皆さんの勇気ある行動をしっかりと支える。そして受け止める責任があるというふうに思っています。

ぜひ皆さんと一緒に皆さんが居心地の良い、そして子どもらしい時間を過ごせる学校を作っていきたいというふうに思っておりますので、今日のサミットを通して、いい議論を進めていただきたいと思います。」と激励のメッセージをいただきました。

○グループセッション①

グループセッション①では参加校を5つのグループに分けて、あるいじめの事例を基に、この事例のどこに問題点があって、このようないじめが起これないようにするためにはどうすればよいかの意見交流を行いました。

グループセッション①の様子



○グループセッション②

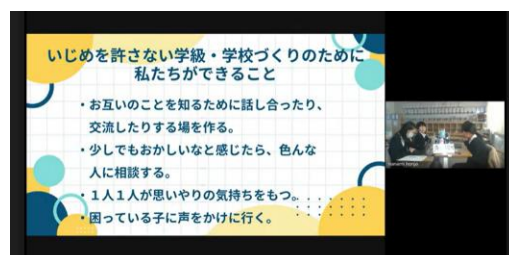
グループセッション②では、いじめを許さない学級や学校にするために、各校が実践できることを協議したり、すでに実践していることを共有したりしました。

グループセッション②の様子



○全体会

全体会では、各校がいじめを許さない学級や学校にするための取組を発表しました。



○奈良教育大学 粕谷 貴志 教授からの講評

最後に奈良教育大学 粕谷 貴志 教授から講評をいただきました。

「いじめは生涯にわたって深刻な影響をもたらすことが分かっています。しかし、現実問題を考えると、なかなか学校でいじめをなくすることが難しいです。その中で、皆さんがこのように真剣に取り組んでいらっしゃるということについて本当に大切なことだと思っています。



みなさんの意見交流を聞いて思ったのは、何がいじめなのか？

何がいじめにつながるのかを気づくことができるということをたくさんの学校が挙げてました。これは大事だと思います。そのためには一体何がいじめなのかということを私たちはきちんと認識しなければいけないです。また、ある学校は「いじり」と「いじめ」の違いを学んだという話が出てました。これは大人でも明確に答えられるかということそこは難しいというふうに考えるかもしれません。

いじめの本質は苦しめようと思って踏みにじること。そして苦しめている声を聞かずに気づかないふりをすることじゃないかと思います。そのことをみなさんは今日学んだんじゃないかなと思います。それから、「おかしいことはおかしい」と言える、助けを求めるっていう仕組みをみんなが作っていることも大事だと思います。ただ、いじめられた場合に自分でいじめられてる、助けてほしいと言うことは難しい。これは私たちは共有しとかなないといけないことです。だからそれを周りが理解してすることは大事で、そこに何か仕組みを持つことは重要だと思います。こんな取り組みがみなさんの学校で進んでいくことが本当にいじめを許さない学校づくりということにつながるんじゃないかなと強く感じてます。

今回のこのサミットのテーマは「動き出そう！思いやり あふれる学校へ」ということでした。本当に思いやりあふれる学校を実現するためには、いじめとは何か、どんなことをしてはいけないことなのかということの感覚をみんなが持つことや、いじめられてる人の気持ちに気づいて、それに私たちが敏感になりながら手を差し伸べられるようになる事はとても大事なことですし、何より今日、聞きながら思ったのは、一人がいじめをなくしたいと思ってただけじゃなくて、学校全体のみなさん一人一人がいじめをなくしたいと思っていることをみんなが知っているって事は大事だと思いました。みんながいじめのない学校を望んでるっていうことをみんなが知ってるということは、いじめはおかしいっていう時におかしいっていうことができるし、それについて助けを求めたりすることも抵抗なくできるって事に繋がるんじゃないかなというふうに思って聞いていました。

いじめがない学校じゃなくてもいいのかもしれませんが。苦しむ人が出ない学校がいいと思います。小さいいじめにみんなが気づいて、それはいけないことだ。そしていじめをした人もいけないことをしたっていう風にやり直しができるようなことが学校のいいところですね。ですから、そういう意味でみんなが育つそして思いやりあふれる学校っていう風になっていったらいいな。というふうに今日感じました。そして、みなさんがこうやって一生懸命考えていらっしゃるということがよくわかって、本当に心強く思いました。」

○終わりに

閉会にあたり、若草中学校の代表生徒が挨拶をしてくれました。

「今回のサミットは、『「動き出そう！」～思いやりあふれる学校へ～』というテーマのもと、いじめを許さない学校づくりに向けた体験や活動の交流を行うために、普段はあまり交流がない、小学校・中学校・高等学校の代表児童生徒が話し合いをおこない、新たな経験、学びを得ることが出来た、大変貴重な機会になりました。



市立学校の児童の意見をもとにして、「いじめを許さない学校づくり」という目的を達成するための大切な一歩になったと思います。

また、自分の学校の話になるのですが、今回のサミットで、若草中学校の取り組みの一つに美点凝視というお互いの良いところに目を向けて、褒め合う活動をしていることも知ってもらえたと思います。今回のサミットを通して、様々な学校の意見を聞き、このような美点凝視などをすることで、いじめを無くすことに少しでもつながるのだと思いました。」と決意を語ってくれました。

今年度も小学校、中学校、高等学校の児童生徒が参加し、異校種間での意見交流ができました。児童生徒たちはそれぞれの立場から積極的に意見発表を行い、いじめをなくすために真剣に考えてくれたと思います。サミットで話し合ったことや学んだこと、意見交流で考えたことなどをもとに、各学校に合った取組や活動を進めてくれることを期待しています。